

岐阜和傘の歴史と技術の アーカイブ

2020415033 望月頌

1.はじめに

卒業研究のテーマを決めるにあたって、現在住んでいる岐阜市に関心を持ち、岐阜市を知っていく中で、岐阜市の伝統工芸品である岐阜和傘に興味を持った。

調べていく中で、岐阜和傘は国指定の伝統工芸品であり、岐阜市にある伝統工芸品は、岐阜和傘だけではなく岐阜うちわ、岐阜提灯がある事が分かった。しかし、岐阜市の伝統工芸品はあまり知られていない。

そこから岐阜市の伝統工芸品を若い世代や知らない方にも知ってもらう為にもデジタルアーカイブを通して岐阜市の伝統工芸品を伝えていけば、より多くの方に知ってもらえると考えた。

本研究では、岐阜和傘の歴史と技術を中心に、岐阜和傘以外の伝統工芸品と長良川の関係性をアーカイブし、より多くの人に伝えていく事を目的としている。

2. 研究の方法

- 1 岐阜和傘を中心に岐阜うちわ、岐阜提灯の文献調査を行う。
- 2 文献調査から分かった事を解析、考察を行う。
- 3 文献調査で分かった歴史や技術について、サイトに上げる。
- 4 文献調査で岐阜和傘に関連する場所や施設を撮影
- 5 撮影したものを解説文と共にサイトに上げる。

2. 研究の方法

「地域資源デジタルアーカイブ」のサイトに主に研究して分かった事を上げている。



The screenshot shows the website for the Digital Archive Project. The main content area features a large image of a tree under a starry night sky. Below the image is a title: 「研究」岐阜和傘の歴史と技術のアーカイブ. Underneath the image is a sub-header: 岐阜和傘の歴史と技術のアーカイブ～岐阜市文化資源デジタルアーカイブの構築～. Below this is another sub-header: 岐阜和傘の歴史. Underneath that is a section titled 岐阜和傘の成り立ち, followed by a paragraph of text: 1756年(宝暦6)、加納藩主・永井直陳は下級武士の生計を助けるため和傘づくりを推奨した。岐阜で和傘を製造するにあたって、分業体制の確立に加え、美濃和紙の生産地に近く、周辺の山間地で良質の竹が採取できるなどに加えて、加納は位置的にも原材料に恵まれた事もあり、加納の和傘は栄え、最盛期の昭和20年代半ばには年産100万本を超えている。

The right sidebar contains a 'CATEGORY' section with a list of links: お知らせ, イベント, デジタルアーカイブ, 伊那市地域文化資源デジタルアーカイブ, 沖縄おうらい, 岐阜県私立大学地方創生推進事業, 岐阜市地域文化資源デジタルアーカイブ, 織田信長遺産デジタルアーカイブ, 郡上白山文化遺産デジタルアーカイブ, 飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ, 左甚五郎遺産デジタルアーカイブ, 岡市地域文化資源デジタルアーカイブ, 犬山市地域文化資源デジタルアーカイブ, 沖縄地域文化資源デジタルアーカイブ, 大規模公開オンライン講座 (MOOC), 教育リソース (テキスト・教材・論文資料等).

At the bottom of the sidebar is an 'ARCHIVE' section.

URL : <https://digitalarchiveproject.jp/>

3. 研究の結果

〈岐阜和傘・岐阜うちわ・岐阜提灯と長良川の関係〉

岐阜和傘・岐阜うちわ・岐阜提灯の3つの共通点として「**長良川**」が挙げられた。



その理由として挙げられたのは、

長良川が昔、「物流や材料」として使われていた事だ。

長良川は、全長166kmあり、岐阜県北部から続いた川が最終的には、三重県桑名市にたどり着く。つまり、伊勢湾に流れ着くのだ。その為、長良川は関西や関東まで、荷物を運ぶのに適していた川であったからこそ、長良川の近くには、様々な伝統工芸品が生まれてきた。

3. 研究の結果

〈岐阜和傘が岐阜市で作られるようになった理由について〉

- ・ この地方に竹材が豊富だったこと
- ・ 傘紙の産地が県内にあったこと。当時加納清水町に紙を扱う業者の店が出来た。
- ・ 油、糊、渋、及び漆などの材料を得るには便利な土地であったこと。
- ・ 加納が東西の交通の便利な位置にあること。
- ・ 市街が発展しながらも土地に余裕があったこと
- ・ 傘工業が簡単な分業制であったこと(専門知識が全くなくても出来た)
- ・ 仕事がない侍の方や農家の方が簡単に従事し、人手には困らなかったこと。

3. 研究の結果

〈現在の岐阜和傘の現状と課題について〉

現在では、岐阜和傘を作っている所は、10店舗しかなく、技術を継承してくれる若者も少なくなっている。

その要因として、**洋傘の普及**がある。和傘自体がどれも手作業で作られている事から、傘一本の単価が高く、手に届きにくい高級品となっており、安くてすぐに手に入れる事が出来る洋傘が傘の主流となっている。

現在、岐阜和傘は、舞台での小道具や結婚式での前撮りの小道具だったり岐阜和傘は活躍している。また、岐阜和傘を現代でも使ってもらう為に、洋服と合わせられる和傘の柄を現代風にデザインしたりと様々な取り組みが行われている。

3. 研究の結果

〈岐阜和傘の現状と課題について〉

- ・ 岐阜和傘の課題点

岐阜和傘を継ぐ後継者不足 岐阜和傘の需要低下

の二つが挙げられる。この課題を解決するためにも……



『デジタルアーカイブを通して、岐阜和傘の歴史と技術を若い世代に知ってもらう。』

事が解決策だと考える。

3. 研究の結果

〈今後の研究の進め方について〉

- ・ 関連する場所や施設の撮影
- ・ 文献調査
- ・ 調べて分かった事について、まとめる。
- ・ サイトに撮影した写真と共に解説文を載せてあげる。

今後は、この4つを行っていき、その中でも撮影を重点的に進めていく。

4. 参考文献

- ・ 岐阜傘に関する調査研究
- ・ 加納町史 下巻
- ・ 密柑水の文化センター 機関誌『水の文化』50号「江戸時代から続く岐阜・加納の和傘づくり」
<https://www.mizu.gr.jp/kikanshi/no50/05.html>
- ・ 和傘CASA
<https://wagasa.shop/>
- ・ マルト藤沢商店
<https://www.wagasa.co.jp/>

4. 参考文献

- ・坂井田永吉商店

<http://kano-wagasa.jp/html/wagasa.html>

- ・世界農業遺産 清流長良川の鮎

<https://giahs-ayu.jp/about-nagaragawa>

- ・public relations office 和傘最大の生産地・岐阜市

https://www.gov-online.go.jp/eng/publicity/book/hlj/html/202306/202306_03_jp.html